

復興庁入札等監視委員会第3回定例会議議事審議概要

開催日及び場所	平成28年3月14日（月）、復興庁本庁	
委員	阿部 博友 一橋大学大学院法学研究科教授 檜谷 隆夫 公認会計士・税理士 中里 実 東京大学大学院法学政治学研究科教授 【敬称略（五十音順）】	
審議対象期間	平成27年4月1日（水）～平成27年9月30日（水）	
抽出案件	3件	（備考）
（内 訳）		抽出事案審議の他に調達改善に係る取組について報告を行った。
競争入札		
最低価格落札方式	1件	
総合評価方式	1件	
随意契約		
企画競争	1件	
公募	件	
不落・不調	件	
特命（企画競争及び公募を除く）	件	
応札（応募）業者数1者	2件	
委員からの意見・質問、それらに対する回答等	意見・質問	回答等
（契約方式） 競争入札 最低価格落札方式 （契約件名） 平成27年度復興庁本庁の電話応対業務 応募業者数1者案件	<p>契約案件の業務については、履行可能なところは他にもあると推測されるが、なぜ1者だったのか。入札情報が行き渡らなかったことも考えられるのではないかと。</p> <p>履行体制に関して、価格のみで判断する方法に問題はないのか。</p> <p>28年度の取組みも聞いたが、27年度と比較し何が変わったのか。</p> <p>公告時期を早期化し、準備期間を長めに確保することによって、新規参入者を考慮した入札手続きとなるよう今後も努力していただきたい。</p>	<p>8社から入札説明書と仕様書の交付希望があり配布を行った。入札は結果的に1者になったものである。入札に参加しなかった事業者に理由を確認したところ、業務の履行体制を勘案すると履行が困難ということであった。</p> <p>一般的に行われている業務であり、価格競争により業者が決定されているので問題はない。</p> <p>事業を行う上で、開札日から事業実施までの準備期間を確保するため、入札公告日及び開札日を早くし入札を行った。その結果2者が応札した。</p>

<p>(契約方式) 競争入札 総合評価落札方式</p> <p>(契約件名) 被災地域企業新事業ハンズオン支援業務</p> <p>応募業者数1者案件</p>	<p>他の契約を見ると、1者応札が多いが理由は何か。</p> <p>この契約は常に一者応札なのか。</p> <p>来年度も継続していくとすると一者応札とならないようにするためには、どんな工夫が必要か。</p> <p>専門分野に分けても一者入札が続くのではないか。</p> <p>今回、一者入札となった原因を検討して、その原因の分析を通じて、来年度以降、複数者になるような工夫を継続していただきたい。</p>	<p>昨年度まで複数の入札だった案件もあり、結果として1者応札となったもの。市場調査は、履行能力のある事業者に対して、特定の分野に偏らないよう行っている。</p> <p>26年度は3者が応札した。</p> <p>専門分野が異なっている事業の支援を1つの契約として行っているので、得意とする専門分野に分けて契約できないか方策を考えている。</p> <p>コストの削減と事業の最適化を行い、各分野において一番知見のある事業者と契約できることが大事かと考えている。加えて競争原理が働くよう今後方策を考えていきたい。</p>
<p>(契約方式) 随意契約 企画競争</p> <p>(契約件名) 「心の復興」事業（『いま、ここで生きている』展（仮）被災者の心をつなぐ作品展覧会開催）</p>	<p>応募者数52のうち22が選定され、その中の1つがここで例示されているということか。</p> <p>選定の基準はどのようになっているのか。</p> <p>審査をするのは、委員会を組織してやっているのか。</p> <p>来年度以降も同じような方式で行っていくならば改善の工夫はないのか。</p> <p>企画競争よりも交付金の方が合理的だという判断か。</p>	<p>はい。</p> <p>公募要領で設定しており、生きがいづくりの効果、独創性、自治体・地域との連携、費用対効果、活動頻度の5項目を5段階で点数化した。加えて、地域バランスなど精査して決めている。</p> <p>委員会を設置し、審査、評価を行った上で最終的に決定している。</p> <p>次年度は契約ではなく、復興庁からの交付金という形に変わる。</p> <p>中長期的な復興庁の取組として、広く地域に根差した活動にしていくためにも、交付金の方が適切という考え方である。</p>

	<p>このような事業の評価は、コストと成果との対応だと思うが、成果をどう評価するのか。</p> <p>展示会を開くのであれば、何人ぐらい来たのか、また、来なかったのか、そういうことも評価できるのではないかと思う。成果の評価と、それを反映した審査基準の一層の工夫によって公平性のある選定プロセスが行われていくのだと思う。</p>	<p>定性的な評価は様々な方法があるが、この事業は、被災者のみなさんが集まって交流していただくことが目的なので、参加人数を重要な指標と考えている。</p>
<p>委員会による意見等の具申の内容</p>	<p>なし</p>	

※必要があるときは、各欄の配置を著しく変更することなく所要の変更を加えることその他所要の調整を加えることができる。